

## 第 67 回 大阪市廃棄物減量等推進審議会 会議要旨

1 日 時 令和 5 年 1 月 27 日（金）14 時 00 分から 15 時 59 分まで

2 場 所 大阪市環境局 第 2 会議室

3 出席者

（委員）

水谷会長、嶋津副会長※、飯田委員、石村委員※、清水委員※、武智委員、仲谷委員※  
永田委員、林 晃大委員※、林 幹二委員※、原委員※、福光委員※、松本委員※  
※ウェブ会議の方法による参加（9 名）

（大阪市）

堀井環境局長、山本環境局理事兼エネルギー政策室長、井原総務部長※、川島事業部長、  
池田総務課長※、川戸企画課長※、三原環境施策課長※、小松家庭ごみ減量課長、山下事  
業管理課長、木村まち美化担当課長※、指物谷一般廃棄物指導課長、  
小玉家庭ごみ減量課長代理（司会）

※ウェブ会議の方法による参加（5 名）

（大阪広域環境施設組合）

青野事務局長※、金子施設部長

※ウェブ会議の方法による参加（1 名）

- 4 議 題
- ・ 現行処理基本計画について
  - ・ 令和 3 年度ごみ量
  - ・ ごみ減量の進捗状況
  - ・ ごみの組成の変化
  - ・ これまでの取り組み状況
  - ・ 更なるごみ減量施策の推進について

5 議事要旨

（1） 大阪市から、「現行処理基本計画について」「令和 3 年度ごみ量」「ごみ減量の進捗状況」「ごみの組成の変化」「これまでの取り組み状況」についての報告と、検討事項として「更なるごみ減量施策の推進について」と参考資料「経済的手法を用いた減量施策」について説明があった。

（2） 委員からの意見等概要

ア 食品ロス対策の推進について、フードドライブやドギーバッグ、食べ残しゼロ推進店舗の登録制度など市民に知られていないことも多いのもっと積極的にアピールする必要がある。

イ ごみの分別について、高齢の一人暮らしで分別が難しいという話をよく聞くので、そういった方へのフォローもお願いしたい。

ウ プラスチックの一括回収の基準の設定について、分別されていないごみの残置強化だけではなく、市民側への基準の周知や啓発などのフォローも重要である。

エ プラスチック新法に基づくプラスチック一括回収のイメージについて、自治体と再商品化事業者が調整した上で認可を受けて独自のルートで再商品化を図る方法と、従来通り回収したものを中継施設で保管や選別したものを再商品化事業者に引き渡す方法（日本容器包装リサイクル協会ルート）で再商品化する方法のどちらを考えているのか。

オ プラスチック一括回収において、リチウムイオン電池が入っていると危険である

ということを、ホームページなどで文字だけでなく動画を使って啓発していくと印象に残るのではないか。

カ ごみ減量の啓発について、私たちの行動が気候変動問題などの未来につながっている、未来に影響を及ぼすといったような観点から、複数の部局が協力しながら進めることが重要である。

キ 家庭系ごみの有料化について、環境法分野の中では排出者負担、受益者負担が原則であり、究極的にごみ減量につながるのではないか。

### (3) 大阪市の意見概要

ごみ減量の必要性について、環境負荷の軽減なども含めた市民啓発や環境教育を複数の部局で連携して取り組んでいきたい。

プラスチック一括回収について、経済的なメリットが大きい独自ルートでの実施を考えているが、再商品化事業者が近隣になく、すぐに取り組めるという状況ではないものの、分別基準も含め検討を進める。

## 6 会議資料

第 67 回大阪市廃棄物減量等推進審議会資料